

2016年6月17日

MINI ビジョン・ネクスト 100 : 「すべての MINI が、私の MINI」。

現代都市向きの完璧なプレミアム・コンパクト・カーとなった現在の MINI。デジタル化とコネクティビティによって、日常の車の使い方はますます変化している。そしてこの変化が最も急速かつ顕著な形で生じているのが都市部である。MINI ビジョン・ネクスト 100 は、未来のアーバン・モビリティをめぐる次のような重要な問いに対して MINI が出した答えとなっている——エモーショナルなレベルで人に関わる車は、未来都市の中に居場所を持てるのか？空間の有効利用」という MINI 独自の思想はどうなるのか？デジタル化やコネクティビティがますます進む世界に、MINI はどのように対応していけるのか？

MINI ビジョン・ネクスト 100 の中核思想は、パーソナル・モビリティにおいて地球の資源を大切に使うこと。「すべての MINI が、私の MINI」のキャッチフレーズは、カーシェアリングに対する独自の考え方を表す。すなわち、個人のニーズにぴったり合った MINI を、いつでもどこからでも呼び出せるようになる 24 時間 365 日無休のサービスで、未来の MINI が利用者の指定する場所まで 100%自動で迎えに行き、さらに個人の趣味や興味、嗜好にも適応する。このコンセプトの中核となるのは、完全接続のデジタル知能だ。

BMW グループ・デザインを統括するシニア・バイス・プレジデントのアドリアン・ファン・ホーイドンクは、MINI の未来ビジョンを次のように説明する。「MINI は五感にアピールするスマートな特注の都市モビリティをお届けしていますが、将来的には、実際に車を持たなくてもそのメリットが楽しめるようになるでしょう。」

未来のモビリティに対して MINI は以下のように巧みにアプローチしている：

「デジタルマイカー」：すべての MINI が私の MINI になる。

「クーパーライザー」：ドライバーとデジタル知能を接続。

「アーバン・ゴカート」：小さく、賢く、キビキビ走る。MINI 独自の楽しい走りは未来もちろんそのままだ。

室内には持続可能な材料を新たに採用

体験を共有する——利用者が MINI コミュニティの一員に。

「デジタルマイカー」——すべての MINI が私の MINI になる。

未来も現在と同じく、MINI や MINI が提案するライフスタイルに魅力を感じる人は多いはず。ただ、その仲間に加わるために MINI のオーナーになる必要は、実際にはなくなるだろう。デザインチームは課題として次のように考えた。MINI に、広く瞬時に適応できる能力（ドライバーが自分の趣味にぴったり合ったマイカーのように感じるような）を持たせ、いつでもどこでも必要に応じて使えるようにするにはどうすればよいか？

MINI ビジョン・ネクスト 100 は、地味なシルバーの衣をまとう。MINI デザイナーはこれを「ま

っさらのキャンバス」と呼ぶ。

そのキャンバスをどう使うかは個々の利用者次第。そのときの気分や状況に応じてフレキシブルに使用できる。ルーフの色や室内照明の雰囲気までも変えられる。色やグラフィクス、コンテナについてドライバーに対応して予測を行い、ひとりひとりに応じて室内環境や室内情報一式の設定を行う。

クーパーライザーは、ドライバーとデジタル知能を接続するものだ。

クーパーライザーとは、MINI のコックピットでおなじみのデザインとなった中央配置の円形メーターに今回与えた名前。MINI ビジョン・ネクスト 100 では万華鏡のように光り輝く。クーパーライザーが生み出す色やパターンが象徴するこの車の多面的なデジタル知能は、エンターテインメントや通信、自動運転のオプションに至るまで、各ドライバーに最適な設定を選ぶ能力を備えている。

走行中、ドライバーは室内の雰囲気やドライブモードを設定する回転コントローラーを操作することで、クーパーライザーの判断に介入することができるため、ドライバーによる運転においても自動運転においても、ドライバーひとりひとりにぴったりと適合した走りが得られる。そして「インスパイア・ミー」ボタンを押すと、クーパーライザーのもう 1 つの特殊機能が起動する。これは、ダウンロードした利用者データを確認することで現在のドライバーに対するおすすめ情報を選択、インスピレーションを与える材料として提供するものだ。例えば、ドライバーがある芸術家を好み、展覧会を鑑賞したばかりだとする。すると、「MINI の設定をその芸術家をテーマとしたものに変更しませんか」と車の方から聞いてくれたりする。また、郊外に向かうワインディングロードを探し出し、高性能モード「ジョン・クーパー・ワークス」で走ってみませんか、と勧めてくれたりする。

「アーバン・ゴーカー」——小さく、賢く、キビキビ走る。MINI では未来世界でも、これまで馴染みのある、お気に入りの楽しい走りを引き続きお届けする。

MINI の走りは今後も楽しくなければならぬ。ドライバーができるだけ自分で運転したくなるほど。スピードを身体で受け止めつつ、ワインディングロードを俊敏に駆け抜ける感覚。それこそ、MINI が MINI たるゆえんである。しかし、それだけではない。未来に訪れる自動運転の時代には、走りが持つこの側面がいつそう重要かつ特別な意味を持つことになるかもしれないのだ。MINI ビジョン・ネクスト 100 は、さまざまな部分でゴーカー的なフィーリングを新たな水準に高めるものとなる。多くのスイッチ類や画面を省略した室内は、ムダのないすっきりしたデザインとなっている。

また、ガラスのフロントエンドから見る前方の景色は迫力満点だ。拡張現実 (AR) ディスプレイによりルートや最適な走行ラインを表示することで、きわめてエキサイティングな走りを演出する。

こうしたダイナミックな装備に加え、ディテールを巧みに工夫し、最小の占有面積という制約の中で室内に最大のスペースを確保することもまた、MINI の本質的な特徴である。ゼロエミッ

ション駆動システムを効率的にパッケージするとともに、クラッシュゾーンを小さく抑えることで、1959年に登場した初代MINIとあまり変わらないコンパクトなボディが可能となる。キャビンスペースのゆったり感をさらに強化すべく、室内幅いっぱいには伸びたベンチシートのほか、ステアリングホイールといっしょにスライドして位置が変わるペダルを採用している。ステアリングホイールは常に前方にあるが、自動運転も可能となる。運転操作が苦痛になったら、運転は車に任せて別のことをすればよい。MINI ビジョン・ネクスト 100 では自動運転が重要な役割を受け持ち、充電ステーションや洗車場・駐車場へ向かったり、次の利用者を迎えにいたりする走行も無人で行えるようになる。手動運転から自動運転への切り替え操作は、ステアリングホイールを運転席と助手席の間の中央位置へ移動させるだけ。これにより車内での体の動きの自由度が高まるほか、交通量の多い市街地での乗り降りもずっと楽になる。

一体型ベンチシートと、センターコンソールのない左右いっぱいに広がるフットウェルも同じく乗員の動きを容易にするもので、左右どちらからでも速やかに乗降できる。しかも、誰がどこに座るか前もって決めておくことも不要となる。ダイナミックな走りを楽しむ場合は、シート内部のアクティブ装備により運転席と助手席の両方でラテラルサポートが提供される。また、狭い場所に駐車した場合、ドアがその限られたスペースで可能な最大角度まで開く自動機能が採用されている。

持続可能な材料を革新的な方法で活用。

MINI ビジョン・ネクスト 100 の材料選定では、責任ある資源利用を重視し、優れた質感を長年にわたって保つこと、経年劣化しても趣があること、肌ざわりがよいことを判断基準とした。デジタル化が進む中、アナログ的な特質やフィーリングがますます重要になってくるし、カーシェアリングの利用が増えれば、室内材料にはこれまでよりはるかに高い耐久性が必要となる。MINI のインテリアデザイン部門では、フロア部やルーフライニング、サイドパネルトリムなどに再生プラスチックとアルミニウムによる先進材料を使うほか、真鍮や玄武岩、セルロースといった、車のキャビンにはあまり見られない材料も採用した。フロント部分を囲むキャリア&情報ストリップ（スライド式ステアリングホイールのマウントを搭載）と薄い真鍮構造のクーパライザーがその好例だ。ステアリングホイール後ろの収納ネットに軽量材料の玄武岩を、またシート下部のトリムには紙に似た再生セルロースを採用している。こうした材料使用の新機軸としてはそのほか、使用によって風合いが加わるようにする工夫や、美しい外観を長く保つ技術などが挙げられる。また、選定した材料や加工方法に特有の不規則性を大事にすることで、表面に自然な外観と手ざわりを与えている。

その一例となるのがアルカンターラのニットによるシートカバー。アルカンターラは丈夫でかすかに虹色に見える材料だ。ウッドやレザーなどの伝統的な室内材料は意識的に避けられている。

MINI ビジョン・ネクスト 100 に見られるアナログデザインの例としてはこのほか、ホイールがある。回転によって「オンブロシネマ（ストライプシネマ）」的効果を生み出すもので、ホイールの外側の面は動かず、その内側のディスクがタイヤとともに回転する構造となっている。ホイール外面の開口部を通して、揺らめくグラフィック（やはり真鍮色）の滑らかな動きが目

に入り、各ホイールが機械の宝石のように見えるようデザインされている。

体験を共有する——利用者が MINI コミュニティの一員に。

車や住宅などのモノの共有がますます普及してきた。デジタル化やコネクティビティ、人工知能の進展で共有が簡単にできるようになり、自動化が進んだことによる。

MINI ビジョン・ネクスト 100 は、同じ考え方をもち、MINI 的ライフスタイルを共有する人々をつなげていく。みんながみんなからメリットを受ける世界。モビリティはインスピレーションあふれる体験の世界を切り開きながら、持続可能なアプローチと賢明な資源利用を堅持する。例えば、あるジャンルのアートに興味を持つ未来の MINI 利用者がいて、その人が見たいと思われる展覧会の内覧会チケットが売り切れ寸前になっているところを友人が押さえてくれたとする。その場合 MINI ビジョン・ネクスト 100 は内覧会を見るためにどうすることが必要かを把握し、すべての調整や計画を行う。車に乗ることそのものは、完璧に手配されたサービスの一部となるのだ。

MINI ではこのような未来のビジョンを、体験の共有と呼ぶ。

この車の最も重要な点について、MINI デザイン部長のアンダース・バーミングは次のように説明する。「MINI ビジョン・ネクスト 100 は MINI 独自の世界観が未来にどのような形を取るかを示すものです。そこでは走りの体験が引き続きエモーショナルな中核を形成し、その周辺に簡単円滑に利用できる一連のサービスが展開されることになるでしょう。」